



平成27年12月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成27年7月24日

上場会社名 株式会社モバイルファクトリー 上場取引所 東  
 コード番号 3912 URL http://www.mobilefactory.jp  
 代表者 (役職名)代表取締役 (氏名)宮崎 裕二  
 問合せ先責任者 (役職名)計数管理部長 (氏名)谷本 洋 (TEL)03-3447-1181  
 四半期報告書提出予定日 平成27年8月14日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・証券アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成27年12月期第2四半期の業績 (平成27年1月1日～平成27年6月30日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年12月期第2四半期	800	—	136	—	128	—	75	—
26年12月期第2四半期	—	—	—	—	—	—	—	—

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
27年12月期第2四半期	34.10	34.08
26年12月期第2四半期	—	—

- (注) 1. 平成26年12月期第2四半期において、四半期財務諸表を作成していないため、平成26年12月期第2四半期の数値及び平成27年12月期第2四半期の対前年同四半期増減率を記載しておりません。  
 2. 当社株式は、平成27年3月26日に東京証券取引所マザーズに上場しております。平成27年12月期第2四半期の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益は、新規上場日から平成27年12月期第2四半期累計期間の末日までの平均株価を期中平均株価とみなして算定しております。

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
27年12月期第2四半期	1,707	1,472	86.3
26年12月期	1,184	905	76.4

(参考) 自己資本 27年12月期第2四半期 1,472百万円 26年12月期 905百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
26年12月期	—	0.00	—	0.00	0.00
27年12月期	—	0.00	—	—	—
27年12月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成27年12月期の業績予想 (平成27年1月1日～平成27年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,633	6.1	241	14.2	234	10.3	147	24.8	66.35

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無  
 (2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示  
     ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無  
     ② ①以外の会計方針の変更 : 無  
     ③ 会計上の見積りの変更 : 無  
     ④ 修正再表示 : 無  
 (3) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	27年12月期 2 Q	2,416,250株	26年12月期	2,037,250株
② 期末自己株式数	27年12月期 2 Q	—株	26年12月期	—株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	27年12月期 2 Q	2,215,802株	26年12月期 2 Q	—株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があり、当社は将来予測に関するいかなる内容についても、その確実性を保証するものではありません。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(四半期決算補足資料及び四半期決算説明会内容の入手方法について)

当社は、決算の説明資料として、四半期決算短信発表日 (平成27年7月24日 (金)) に T D n e t で開示いたします。

また、平成27年7月28日 (火) にアナリスト向け説明会を開催する予定です。当日使用する資料は、原則上記決算説明資料と同一のものを予定しており、当該資料は開催後速やかに東証ウェブサイト上の「東証上場会社情報サービス」の「上場会社情報 (基本情報)」において公開されます。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	6
(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	6
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	6
3. 四半期財務諸表	7
(1) 四半期貸借対照表	7
(2) 四半期損益計算書	9
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	10
(4) 四半期財務諸表に関する注記事項	11
(継続企業の前提に関する注記)	11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	11
(セグメント情報等)	11

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期累計期間における我が国の経済状況は、企業業績の回復や株式市場の株高傾向等、景気は緩やかな回復基調が続いております。一方で、国際情勢不安による為替の変動に対する懸念や個人消費マインドの低下により先行きは予断を許さない状況が続いております。

このような状況のもと、当社は引き続きモバイルサービス事業の拡大に向けて、ソーシャルアプリサービス及びコンテンツサービスにおいて、ユーザー数の拡大、収益力向上に注力いたしました。

ソーシャルアプリサービスでは、位置情報連動型ゲームにて「駅奪取PLUS」内で株式会社コロプラが提供しております020（オンラインtoオフライン）（注1）サービスの「乗り物コロカ」（注2）と連携を開始いたしました。また、東武鉄道株式会社と協業して日光東照宮四百年式年大祭を記念したモバイルスタンプラリーを開始いたしました。同じく位置情報連動型ゲームの「ステーションメモリーズ！」においては、広告出稿等のプロモーションによる新規ユーザーの獲得を行ったほか、ゴールデンウィークでの利用者増加に合わせたセールを行った効果もあり、好調に売上が推移いたしました。

このような企画や日常運営施策により位置情報連動型ゲームの月別売上高は、4月から6月までの各月において月間売上高を更新いたしました。その結果、四半期別の売上高につきましても当第1四半期会計期間に続きまして当第2四半期会計期間でも過去最高を更新いたしました。

スマートノベルにおきましては、当第2四半期累計期間で新作を計3本リリースしております。

コンテンツサービスにおきましては、継続的に広告出稿管理を行い、収益の安定化に取り組んでおります。

上記の結果、当第2四半期累計期間における売上高は800,352千円、営業利益は136,090千円、経常利益は128,016千円、四半期純利益は75,550千円となりました。

なお、当社は、モバイルサービス事業の単一セグメントであるため、セグメント別の記載を省略しております。

参考：サービス別売上高（単位：千円）

項目		当第2四半期累計期間 (自 平成27年1月1日 至 平成27年6月30日)
	位置情報連動型ゲーム	224,690
	スマートノベル	147,153
	その他	2,000
ソーシャルアプリサービス 計		373,844
コンテンツサービス 計		426,508
合計		800,352

(注1)020（オンラインtoオフライン）は、インターネット上で利用するサービス（オンライン）を通して、ユーザーに実店舗（オフライン）へと足を運んでもらえるように行う取り組み。

(注2)コロカは、株式会社コロプラが発行・運用しているオリジナルカードです。位置情報ゲームプラットフォーム「コロプラ」のゲームと連携している020サービスであります。

## (2) 財政状態に関する説明

### ①資産、負債及び純資産の状況

#### (資産)

流動資産は前事業年度末に比べて、531,903千円増加し、1,521,694千円となりました。これは主として、現金及び預金が、新規上場による資金調達等により523,681千円増加したことによるものであります。

固定資産は前事業年度末に比べて、9,265千円減少し、185,637千円となりました。これは主として、ソーシャルアプリ新規作品開発により無形固定資産のコンテンツ仮勘定が8,196千円増加しましたが、無形固定資産のコンテンツが減価償却等により23,159千円減少したことによるものであります。

上記の結果、総資産は522,638千円増加し、1,707,332千円となりました。

#### (負債)

流動負債は前事業年度末に比べて、44,587千円減少し、223,274千円となりました。これは主として、人員増加や好調な業績を受けて賞与引当金が2,786千円増加しましたが、広告宣伝費や社会保険料等の支払により未払金が18,637千円減少したこと及び納付により未払法人税等が14,504千円、未払消費税等が12,480千円減少したことによるものであります。

固定負債は資産除去債務が時の経過により増加しております。

上記の結果、負債は44,550千円減少し、234,563千円となりました。

#### (純資産)

純資産合計は前事業年度末に比べて、567,189千円増加し、1,472,768千円となりました。これは、公募増資及び第三者割当増資を実施したことにより資本金及び資本剰余金がそれぞれ245,819千円増加したこと、四半期純利益の計上に伴い利益剰余金の金額が75,550千円増加したことによるものであります。

### ②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期累計期間における現金及び現金同等物(以下「資金」という)は、営業活動により資金を獲得し、その一部をサービス開発推進のために使用しました。また、新規上場による新株の発行及び第三者割当増資にて資金調達を行いました。

上記の結果、資金は前事業年度末に比べて、523,681千円増加し、1,148,488千円となりました。当第2四半期累計期間における各キャッシュ・フローの状況とその要因は以下のとおりであります。

#### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期累計期間において営業活動の結果得られた資金は、93,421千円となりました。主な収入要因は、税引前四半期純利益の計上128,016千円及び減価償却費の計上68,377千円であり、主な支出要因は、法人税等の支払額71,848千円、売上増加による売上債権の増加10,645千円、及び広告宣伝費や社会保険料等の支払を行ったことによる未払金の減少19,213千円であります。

#### (投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期累計期間において投資活動の結果使用した資金は、53,236千円となりました。支出要因は、当社サービスの開発にあたり発生したソフトウェア仮勘定及びコンテンツ仮勘定の増加による無形固定資産の取得による支出48,454千円、及びサーバー等ネットワーク設備への設備投資に伴う有形固定資産の取得による支出4,782千円であります。

#### (財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期累計期間における財務活動によるキャッシュ・フローは、平成27年3月25日を払込期日とする公募増資及び平成27年4月30日を払込期日とする第三者割当増資により発生した株式発行による収入486,263千円から、株式公開費用の支出2,767千円を差し引いた483,495千円の増加となりました。

## (3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成27年12月期の業績予想につきましては、平成27年3月26日付の「東京証券取引所マザーズへの上場に伴う当社決算情報のお知らせ」で公表しました業績予想から修正は行っておりません。

「業績予想などの将来予測情報に関する説明」として、①第2四半期累計期間の業績予想及び実績比較、②通期業績予想に対する進捗及び第3四半期以降の見込み、③第3四半期以降の重点項目、④業績予想などの将来予測情報の作成方法、について記載いたします。

## ①第2四半期累計期間の業績予想及び実績比較

項目(単位:百万円)	第2四半期累計業績予想	第2四半期累計実績	差異	計画比
売上高	784	800	16	102.1%
営業利益	113	136	22	119.6%
経常利益	106	128	21	120.1%
四半期純利益	67	75	8	112.5%

当第2四半期累計期間における売上高は、800百万円となり、第2四半期累計期間の業績予想に対して102.1%となりました。

コンテンツサービスは計画通りに進捗いたしました。

ソーシャルアプリサービスのうち、スマートノベルについては計画を下回りましたが、位置情報連動型ゲームにつきましては計画を上回りました。「ステーションメモリーズ！」が好調に推移しており、特に他社名義で配信しておりますiOS及びAndroid向けについては、平成27年2月下旬より本格的にプロモーションを開始し、ユーザー増加により、第2四半期累計期間の売上高は計画比155%となりました。

また、自社名義で配信しておりますアプリは売上高の総額表示(注1)を行っておりますが、他社名義で配信しておりますアプリは売上高の純額表示(注2)を行っております。従いまして、「ステーションメモリーズ！」のiOS及びAndroid向けは、自社名義アプリと比較して、利益率が高く、全社利益への貢献度合いが大きくなっております。

コスト項目については、一部利用月が後ろ倒しになっており第3四半期会計期間以降に発生するものがありますが、継続してコスト削減に努めた結果、当初計画を下回りました。

また税金費用については、法人税等の税率変更等による繰延税金資産の取り崩しを行っております。そのため、当初計画より税金費用が増加しております。

上記の結果、第2四半期累計期間の業績予想に対して実績は、売上高102.1%、営業利益119.6%、経常利益120.1%及び四半期純利益112.5%となっており、業績予想を上回る実績となりました。

## ②通期業績予想に対する進捗及び第3四半期以降の見込み

項目(単位:百万円)	通期業績予想	第2四半期累計実績	進捗率
売上高	1,633	800	49.0%
営業利益	241	136	56.3%
経常利益	234	128	54.6%
四半期(当期)純利益	147	75	51.2%

通期業績予想に対して、第2四半期累計期間において進捗率は49.0%~56.3%となっております。

「①第2四半期累計期間の業績予想及び実績比較」に記載のとおり、位置情報連動型ゲームの「ステーションメモリーズ！」は、第2四半期累計期間において好調に推移しました。そのため、第3四半期会計期間以降につきましても引き続き計画を上回ることを見込んでおります。

また、コンテンツサービスの着メロ等のサービスにつきましては、計画通りの着地を見込んでおります。

コストについては、第2四半期累計期間同様に、削減に努めます。

しかしながら、(a)コストについては保守的観点から計画通りに据え置いていること、(b)スマートノベルの第2四半期累計期間の売上高が計画を下回って進捗していること、(c)第3四半期会計期間以降にリリースを計画している位置情報連動型ゲームの新作は保守的にみていることから、現時点の通期業績予想につきましては修正しておりません。

③第3四半期以降の重点項目

第3四半期以降は第2四半期までの状況を踏まえて以下を中心に取り組みます。

継続して「ステーションメモリーズ！」のユーザー満足度を向上させると共に、ユーザー数の拡大及び売上拡大に注力します。ユーザー数の拡大については、「ステーションメモリーズ！」のアプリの性質を考慮したプロモーション等を継続して実施していきます。売上拡大については、現在の運営体制を引き続き行うと共に、継続して楽しんでもらえるようなイベントやキャンペーン等を行ってまいります。

提出日現在において、位置情報連動型ゲームを2本開発中であり、「ステーションメモリーズ！」に続くヒット作になるように開発を進めております。

また、位置情報連動型ゲームを通じたO2Oを加速いたします。

④業績予想などの将来予測情報の作成方法

将来予測情報の作成方法については、平成27年4月22日付の「平成27年12月期第1四半期決算短信」の添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明」で公表しました内容から変更はありません。

なお、業績予想は現時点において入手可能な情報に基づき作成しており、実際の業績は今後様々な要因によって予想値と異なる場合があります。

また、当社業績に重要な影響を及ぼす事象が発生した場合には、速やかに開示いたします。

(注1) 売上高の総額表示は、自社名義で配信しているサービスの売上の表示方法になり、ユーザー利用代金を売上高として表示しており、プラットフォーム等の手数料を原価又は販売費及び一般管理費に表示しております。

(注2) 売上高の純額表示は、他社名義で配信しているサービスの売上の表示方法になり、ユーザー利用代金からプラットフォーム等の手数料を控除した金額を売上高として表示しております。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。



## 3. 四半期財務諸表

## (1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成26年12月31日)	当第2四半期会計期間 (平成27年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	624,806	1,148,488
売掛金	327,164	337,810
貯蔵品	499	605
前払費用	15,276	16,103
繰延税金資産	19,997	18,502
その他	3,544	1,354
貸倒引当金	△1,499	△1,168
流動資産合計	989,790	1,521,694
固定資産		
有形固定資産		
建物	39,641	39,641
減価償却累計額	△8,861	△11,626
建物(純額)	30,780	28,014
工具、器具及び備品	14,615	19,973
減価償却累計額	△9,381	△10,537
工具、器具及び備品(純額)	5,233	9,435
有形固定資産合計	36,014	37,450
無形固定資産		
ソフトウェア	9,546	7,964
コンテンツ	39,019	15,859
コンテンツ仮勘定	16,908	25,105
その他	53	30
無形固定資産合計	65,527	48,959
投資その他の資産		
敷金及び保証金	24,133	24,133
繰延税金資産	69,226	75,093
投資その他の資産合計	93,360	99,227
固定資産合計	194,902	185,637
資産合計	1,184,693	1,707,332

(単位：千円)

	前事業年度 (平成26年12月31日)	当第2四半期会計期間 (平成27年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	11,913	11,566
未払金	119,622	100,984
未払費用	982	1,452
未払法人税等	73,705	59,200
未払消費税等	31,744	19,264
預り金	1,412	1,428
賞与引当金	26,590	29,376
その他	1,891	—
流動負債合計	267,861	223,274
固定負債		
資産除去債務	11,252	11,289
固定負債合計	11,252	11,289
負債合計	279,114	234,563
純資産の部		
株主資本		
資本金	224,500	470,319
資本剰余金	—	245,819
利益剰余金	681,079	756,629
株主資本合計	905,579	1,472,768
純資産合計	905,579	1,472,768
負債純資産合計	1,184,693	1,707,332

## (2) 四半期損益計算書

第2四半期累計期間

(単位：千円)

	当第2四半期累計期間 (自平成27年1月1日 至平成27年6月30日)
売上高	800,352
売上原価	389,526
売上総利益	410,826
販売費及び一般管理費	274,735
営業利益	136,090
営業外収益	
受取利息	18
受取賃貸料	50
営業外収益合計	68
営業外費用	
株式交付費	5,375
株式公開費用	2,767
営業外費用合計	8,142
経常利益	128,016
税引前四半期純利益	128,016
法人税、住民税及び事業税	56,837
法人税等調整額	△4,371
法人税等合計	52,466
四半期純利益	75,550

## (3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

	(単位：千円)
	当第2四半期累計期間 (自平成27年1月1日 至平成27年6月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	
税引前四半期純利益	128,016
減価償却費	68,377
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△331
賞与引当金の増減額(△は減少)	2,786
受取利息	△18
株式交付費	5,375
株式公開費用	2,767
売上債権の増減額(△は増加)	△10,645
たな卸資産の増減額(△は増加)	△105
前払費用の増減額(△は増加)	△827
仕入債務の増減額(△は減少)	△346
未払金の増減額(△は減少)	△19,213
未払消費税の増減額(△は減少)	△12,480
その他	1,896
小計	165,251
利息及び配当金の受取額	18
法人税等の支払額	△71,848
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>93,421</b>
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	
有形固定資産の取得による支出	△4,782
無形固定資産の取得による支出	△48,454
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△53,236</b>
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	
株式の発行による収入	486,263
株式公開費用の支出	△2,767
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>483,495</b>
現金及び現金同等物に係る換算差額	-
<b>現金及び現金同等物の増減額(△は減少)</b>	<b>523,681</b>
現金及び現金同等物の期首残高	624,806
<b>現金及び現金同等物の四半期末残高</b>	<b>1,148,488</b>

(4) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当第2四半期累計期間(自 平成27年1月1日 至 平成27年6月30日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第2四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

当社は平成27年2月20日及び平成27年3月6日開催の当社取締役会決議に基づき、有償一般募集による新株式の発行を行い、資本金及び資本剰余金がそれぞれ158,907千円増加しております。また、平成27年4月30日付でオーバーアロットメントによる売出しに関連して、株式会社SBI証券から第三者割当増資の払込みを受け、資本金及び資本剰余金がそれぞれ86,912千円増加しております。

これらの結果、当第2四半期累計期間において資本金及び資本剰余金がそれぞれ245,819千円増加し、当第2四半期会計期間末において資本金が470,319千円、資本剰余金が245,819千円となっております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当第2四半期累計期間(自 平成27年1月1日 至 平成27年6月30日)

当社は、モバイルサービス事業の単一セグメントであるため、セグメント別の記載を省略しております。